



みき

おにはそと、ふくはうち  
(下高岡保育所)

# 三木町 議会だより



## 12月定例議会

希少糖の里へ予算を追加  
..... 3

町長の見解を問う  
..... 4

一般質問5人登壇

17年度決算を認定  
..... 10

新年度予算に生かせ!

固定資産評価審査委員に  
2氏を選任  
..... 11

三木町議会 編集 議会広報編集委員会

〒七六一〇六九二 香川県木田郡三木町大字氷上三三〇

TEL087(891)3311

三木町HP <http://www.town.miki.jp/>

NO.  
**118**  
平成19年2月20日発行

# 年頭のあいさつ



石井 議長



糸目 副議長

新年明けましておめでとうございます。

平成19年の輝かしい新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

町民の皆様方には、日ごろから町政全般に

対する温かいご理解とご協力を賜り、議会を代表いたしましたして厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、

国際的には未だに緊張

が続くイラク情勢、ま

た北朝鮮のミサイル発

射・地下核実験・拉致

問題等により、終結を

みない六カ国協議等、

未だに不安定でありま

すが、一刻も早く平和

的解決がなされること

が切望されております。

一方国内においては、

小泉内閣から安倍内閣

へバトタッチされ、

景気は全国的に緩やか

な回復傾向と言われ、

平成19年度国の予算は

83兆円を超えるものと

なっておりますが、本

年も地方交付税の減額

が見込まれ、地方にと

っては益々厳しい財政

事情であります。

また、県内において

は、平成の大合併によ

り、5市38町から、8

市9町となりましたが、

本町は、合併しない町

を選択し、「小さくて

も輝くまち」を目指し

歩み始めたところであ

ります。

このような中、住民

の皆様方に最も身近な

生活環境の整備といた

しまして、農業集落排

水事業、さらには公共

下水道事業に本格的に

着手いたしました。また、小菘地区には、世界的に注目される希少糖研究施設を誘致し、

本町の活性化に積極的

に取り組んでまいりま

した。

本年も昨年同様、我々

議員一同、一丸となっ

て、地方の行財政運営

における自主性と自立

性を高め、町民福祉の

向上と、住環境整備の

推進などに努めてまい

ります。

どうか、本年も相変

わらぬご支援、ご協力

を賜りますようお願い

申し上げます。

なお、最後になりました

ましたが、町民皆様方の

益々のご健勝とご多幸

をご祈念申し上げます

て、新年のごあいさつ

といたします。

## 議会の動き

10 / 11 議会広報編集委員会

16 議会広報編集委員会

18 議会運営委員会

20 議会広報編集委員会

25 全員協議会

第2回臨時議会

26 議会広報編集委員会

香川県町議会議員研修会

27 決算特別委員会

30 決算特別委員会

31 広報編集委員会

11 / 6 決算特別委員会

7 決算特別委員会（現地調査）

9 決算特別委員会（総括）

10 香川県広報発行町議会県外研修

17 建設経済常任委員会

24 下水道推進特別委員会

教育民生常任委員会

27 環境保全対策特別委員会

30 建設経済常任委員会

12 / 5 議会運営委員会

13 第4回定例議会開会（議案の上程）

議会広報編集委員会

14 総務常任委員会

教育民生常任委員会

15 建設経済常任委員会

18 本会議（内容説明、質疑、一般質問）

20 本会議（議案の討論・採決）



12月定例議会の様子

# 12月定例議会

補正予算913万5千円を減額  
一般会計予算87億1,185万円に

希少糖の里へ、設計費等399万円を追加（専決処分）

平成18年第4回定例議会は、12月13日から20日までの8日間の会期で開会された。平成18年度一般会計補正予算案のほか、県内全市町による香川県後期高齢者医療広域連合の設立など22議案が上程され、全議案を原案どおり可決した。

決算特別委員会に付託されていた平成17年度の各会計および一部事務組合の決算については、本会議で満場一致で認定した。

一般質問では5人が登壇し、山南地区の活性化策、町財政の運営および行政サービスのあり方、多選についての見解、介護予防サービス事業、いじめの問題などについて、町長の見解を求めた。



保育所条例の一部を改正

現在の少子化傾向と子育て家庭の経済的負担や、子どもたちの健全育成を図る上で、保育所への入手続き、保育料の決定や徴収などの、必要な事項の改正をするものである。

香川県後期高齢者医療広域連合が設立

後期高齢者医療広域連合の目的は、平成20年4月1日から、国において後期高齢者医療制度が創設されることへの対応として、75歳以上の後期高齢者、および65歳から74歳までの寝たきりの高齢者を被保険者として、保険料の改正や医療費の支給などの事務を行うため、各都道府県において全市町村が加入する特別地方公共団体として、平成19年1月15日、県自治会館内に設立される。

放課後児童クラブ4月1日から有料化

児童クラブの会費を近隣市町と同様に、4月1日から有料とするものである。

年間通して入会の場合

月額 5000円

学校休業日の期間中のみ利用者

- ・夏季休業期間 10000円
- ・冬季休業期間 3000円
- ・学年末休業期間 3000円
- ・学年始休業期間 2000円

1世帯で2人以上の児童が利用する場合

2人目以上は半額

文具代等の2000円は、従来どおり集金する。



4月に増設される、平井児童クラブ第2教室（井上児童館）



三木 和則 議員

山南地区の現状は

奥山・小菘の両地区の最近10年間の人口減少率と、高齢化率の推移はどのようになっているか。

町長

平成7年の国勢調査では、両地区の合計人口が772名に対して、本年12月1日現在の住基人口は579名であった。人数で193名、率にして25%の減少となっている。人口の増加傾向が顕著な氷上地区の例を上げると、人口で1495名の増加率にして32%増となっている。高齢化率については、山南地区が35%であったものが現在は51%となっている。同じく氷上地区は16%が、現在は18%となっており、山南地区は極めて憂慮すべき状況であると考ええる。

行政サービスのアップを計れ

その山南地区の人々は、行政サービスの不足を痛感している。そこで山南の郷に勤務している保健師に、駐在員を兼務させてはどうか。各種証明書発行業務などの取り次ぎをさせてはどうか。多額の経費はかからないと思うが。

町長

山南地区の住民の皆様のお気持ちを察し、また、その地理的不便さを感じるものがある。しかし増員は難しい業務させてはどうかという点については十分に検討したい。

上下水道の未給水地区をなくせ

我々にとって、健康で文化的な生活を営む上で、生活水は切っても切れない大切なものである。また大量に使われるようにもなった。しかしながら、町内にはまだまだ上下水道の未給水地区があるという現状をどうお考えか。

町長

ご指摘のとおり、住民生活を支える「ライフライン」として、安全な水を安定して供給することは、極めて大切なことである。平成18年4月現在の未給水地区は、山南地区31世帯、田中地区29世帯、氷上地区7世帯、下高岡地区7世帯となっている。この解消のために、配水管布設の推進やポンプ加圧施設の建設など、工夫を凝らし対応したい。



活性化策の拠点に (山南の郷)

その未給水整備対象地区については、早急に解消をお願いしたい。残りの整備対象以外の地区についての対応を提案したい。それは打ち抜き井戸に対する補助である。方法はいろいろあると思うが、他の自治体で補助をしている所はあるか。

上下水道課長

広野・津柳・小菘下所を除く小菘の各地区が主な対象地区だと思う。全国で補助をしている所が数箇所だけがある。近くでは旧塩江町がある。よく研究し、考えたい。

下水道で200億、300億の話がある陰で、上下水道の整備も終わっていないのに何が下水の話だとよくお叱りをうける。ぜひ検討し、実現を願いたい。お預りした税金を、公平に使って頂くことを強く望みたい。



松原 哲也 議員

質問

現在の三木町の財政状態は

答

裕福とは言えないが心配点はない

町長の政治姿勢を問う

先般、見事6選を果たされた町長の政治姿勢をお尋ねしたい。  
選挙の際に争点となった、市町村合併の是非、また白山公園の造成に対する町長の考えと、今後の展望は。

町長

争点とは思っていないが、合併については、合併特例債等の特例期限が終了したことで、あえて今議論する必要はない。また今後は、道州制を見据えた検討を行っていききたい。

白山公園については

三木町誕生50周年の記念事業として、地域住民の熱い期待に応えるべく進めてまいりたい。

合併問題について

三木町の合併は当面検討しないとの事であるが、合併により生じる先行デメリット、例えば行政組織の拡大が招く行政サービスの低下、地域内格差の拡大が懸念されるため、私も町長同様に、合併には慎重な意見を持っている。ただ、多くの市町村が財政難を理由に合併を行う中、三木町の現在の財政状態はどうか。今後、単独で運営していくことに対する不安材料はないのか。

町長

三木町に合併しなければならぬ要素は何もない。財政状態は裕福とは言えないが、心配点はない。今後も堅実に努めてまいりたい。

今後の行政サービスのあり方

地方自治体が競い合い地方の真価が厳しく問われる時代である。そうした中で、他の市町村に優る「かゆい所に手が届く」行き届いた行政サービスが必要ではないか。

特に、休日・夜間の各種証明書発行という時間外窓口サービスの拡充、また電話やインターネットなどを利用した、各種悩み相談窓口の設置は、多くの住民から要望も強く、検討の必要性は高いと思うがどうか。

町長

数年前より、夜間の各種必要証明書の発行予約のみは行っている。しかし、その場での発行となると経費がかかり、費用対効果を念頭にいた場合、現状の利用状況では実施が困難である。

教育問題について

今、教育の現場でいじめが社会問題となっており、そのいじめが原因で自殺の連鎖が起こっているが、一連の事件での本質的な問題は、だれが責任者か分からないことである。

まず、子どもと関わっている全員に、責任があることを自覚しなければならぬ。現状が一番避けなければならないのは、子どもが「大人は助けてくれない」と考えてしまうことである。

学校教育現場におけるいじめ問題に対する認識は、どのように捉えているのか。町内における、いじめに関する実態調査報告と、今後の防止対策と併せて伺う。

教育長

毎月、町内の小中学校を対象に、報告書をもって実態把握に努めている。

学校で起こった問題は、学校で解決するといった強い責任感をもって、今後とも、いじめ問題解決に、積極的に取り組んでいきたい。



時間外はこちらへどうぞ



西丸 一明 議員

質問

多選についての見解は

答

多選は問題なし

県知事が官製談合や  
収賄で相次いで逮捕さ  
れ、多選による権力の  
腐敗が指摘されている  
が、町長の個人的見解  
を示せ。

町長

多選のどこに問題が  
あるか。それは人によ  
り、心がけの問題だ。  
多選だからこそ、人  
脈や指導を受けて町行  
政を推進できる。

選挙で大変お世話に  
なった議員、幹部や町  
民にご恩返しをしてい  
く。

談合しやすい土壌が  
あるのでは

入札制度の改革や選  
挙における業界団体へ  
の「貸し借り」なども  
指摘されているが、見  
解は。

町長

入札は責任をもって  
執行している。

合併の論議は

道州制を踏まえて合  
併について議論だけ  
もしておくべきではな  
いか。

町長

合併はしない、とい  
うのが町民の意向だか  
ら、その方向でいく。

町政の総仕上げ

町長選で、「今回が  
最後だから」、「町政の  
総仕上げ」とかを訴え  
たが、この4年間に住  
民サービスの向上に関  
する魅力ある施策はあ  
るか。

町長

選挙のあり方につ  
いてであるが、選挙期  
中に西丸議員がどんな  
ことをしたのか自分の  
胸に手をあててみたら  
どうか。  
新人候補者に何がで  
きるのか。

傍聴に来ているよう  
だが、あの程度のある  
な人間のある能力の  
人間には負けない。

いじめの実態は

公平・公正・中立  
は保たれているか

「政治的中立」は  
担保されているか

「いじめ」、「生徒の  
自殺」、「給食費の未納  
の問題」、「先生の不祥  
事」など教育委員会の  
役割は重要である。取  
り組みを示せ。  
同時に「政治的中立」  
は担保されているか。

町長

2〜3ヶ月前に常識  
のない街頭演説をして  
いた男のこの程度の次  
元の低い内容だから、  
教育長は答弁に立つ必  
要はない。

教育長  
「・・・」

政治的中立は

教育長、あなたはこ  
のような状況で政治的  
中立が保たれていると  
思うか。

町長

教育長は答えなくて  
よい。

なぜ答えないのか理  
由を示せ。  
議場での質問に答え  
ないのは次元が低い。

町長

あなたは先般の選挙  
で次元の低い事をして  
いる。あの程度の質問に  
は答える必要はない。

教育長

「・・・」

実は実るほど  
頭を垂れる稲穂かな

5期20年も勤めたの  
でしょう。  
あなたは頭を垂れる  
どころかまったく逆だ。

町長

あなたは以外には丁寧  
に答える。

私としては、尊敬で  
きる議員や町民に対し  
ては稲穂の頭が垂れる  
ように頭を下げて、要  
望も聞いていく。

「恩を受けた議員や  
町民にご恩をお返しす  
る。

選挙は選挙。終った  
ら違う意見だったとし  
てもお互い三木町の発  
展のために尽くすのが  
当たり前ではないか。

町長

改めて答弁します。  
あなたの非常識な行動  
の内容について申し上げ  
た次第です。

# 一般質問



谷本 サクミ 議員

## 質問

### 介護予防サービス事業の今後について

## 答

### 予防対策に全力を挙げている

#### 地域包括支援センターについて

介護保険制度は介護予防重視型システムへと転換された中で、「地域包括支援センター」が創設され総合的相談・介護予防のマネージメントの総括をするところが事業の今後の方向について、お伺いする。

町長

町としては、介護予防サービス事業を、できるだけ重点的に、徹底して行い、要介護にならないように努力をしている。予防に力を入れることが、町財政の負担を軽くする。現在、予防対策に全力を挙げている。

地域包括支援センターの稼働実態は

健康福祉課長

65歳以上の高齢者に対し、「さんさん会」な

どで運動機能の向上、栄養改善、口腔機能閉じこもり予防の支援、うつ病予防の支援事業をしている。

2003年高齢者筋力トレーニング事業が国と県で3/4補助でスタートしているが、本町の取り組みをお伺いする。

健康福祉課長

南部高齢者保健センターでは、保健師の指導のもと機能訓練の筋力トレーニングが行われている。また、「さんさん会」などでも運動機能の向上が行われている。

介護予防導入と施設入居者の負担増で給付費の抑制となっているが、本町の介護保険料が増額となった根拠についてお伺いする。

健康福祉課長  
全国的には7000円程度であるが、本町は7割程度の4200円である。

#### 子育て支援の今後の方向について

本町の子育て支援策として、子育て家庭にクーポン券を配布する発言があったが、具体的内容をお伺いする。

町長

子育てクーポンについては、東京都内の熱心な町を訪問し、具体的な内容を調査してきた。その内容は、現在協議中であるが、地元商工会で取り扱ってもらいたい。新年度予算でお示しをする。

#### エンゼルプランの進捗について

平成15年町独自のエンゼルプランが策定された。16年度を見直し年度とし21年度を最終年度としている。見直された項目は。

住民生活課長

平成17年度に「三木町次世代育成支援行動計画」を策定しており、その行動計画に基づき、子どもの健全育成、子育て支援に取り組んでいる。

ところである。町民の協力が得られれば問い合わせをしてみたい。

育児負担の緩和と社会参加を促進するために、県が専門家を派遣する「子育てサークル交流会」があるが、本町の関わりについてお伺いする。

住民生活課長

確認していない。本町としては、地域子育て支援事業、延長保育事業、一時保育促進事業、障害児円滑事業の4事業を行っている。

教育長

その新聞記事を読んでも、本町は何時取り組めるか時期をみている



原田 照治 議員

質問

行財政改革への取り組みは

答

キラリと光る自治体を目指して積極果敢に取り組む

行財政改革について

行財政改革の基本は、競争原理をもって経費を削減するとともに、民間の知恵を生かして、住民サービスの向上を図ることであると思うが、町長の見解と認識を伺う。

町長

現在、地方公共団体においては、厳しい財政状況や住民ニーズの多様化・高度化などを背景として、より簡素で、効率的・効果的な行政体制の整備が求められている。

こうした中、本町においては、平成21年度までの行財政改革の具体的な取り組みを示した「集中改革プラン」を策定し、積極的に行財政改革に取り組んでいるところである。

新年度からは、物品購入の一元化にも取り組むことにしている。分権型社会システムの進展が加速する中、

今後も「キラリと光る自治体」を目指して、行財政改革に取り組んでまいりたい。

新年度予算について

新年度予算編成に取り組む町長の政治姿勢について伺う。

町長

新年度予算は、行財政改革の原点に立ち返り、すべての施策を検証するとともに、最小の経費で最大の効果が得られるよう、斬新なアイデアと行動力を持つて、状況の変化に伴う新たな施策の検討に努める。

職員全員が足元からすべてを見つめ直し、住民が本当に望んでいることを実現できるように、積極果敢に取り組むことを基本として編成する。

いじめ問題について

本町におけるいじめ問題の実態はどうか。また、その対策は適切にとられているのか。

教育長

町内の小中学校で、いじめ問題が存在することは、否定しないが、実態を明らかにすること、加害者、被害者の特定につながることも考えられるので、その実態について明らかにすることは差し控えたい。

いじめ問題の対応については、常に学校全体で取り組むこととしており、学校と家庭、教育委員会、関係機関と十分な連携をもって徹底した解決の道を探っている。

食育について

食育先進町、三木町の構築に向けて、各種団体との連携を図りながら、有効な手段や施策を積極的に行っていくべきと思うが、町長の所見を伺う。

町長

現代社会の食を取り巻く状況は、「食習慣」や「栄養バランス」などが崩れ、食の安全や



JA香川県 三木とれとれ市

安心に対する関心のみがいたずらに高まる一方で、食に対する基礎的な知識の不足が目立っている。

今後、町民の健康増進を支援するために、食育基本法等に基づき「地産地消」の展開や「食の安全性」などを踏まえて、「食育」の啓発と推進に取り組みたい。

# 委員会レポート

## 教育 民生

### 三木中学校屋内運動 場整備計画について

三木中学校屋内運動場の実施設計について内容説明を求めた。

**問** 震度いくらまでを想定して、設計がなされているか。

**答** 教育総務課長 新耐震基準の中で、建物の構造上は、震度6から7程度まで耐えられるように設計される。

### 旧小蓑幼稚園、小・中 学校の所管換について

本年3月末で廃校となった同校の跡地利用について、地域再生計画が認定されたことにより、これに基づき「合同会社希少糖生産技術研究所」に無償貸与するため、跡地の土地、建物等を普通財産へ所管換を行うことについて担当課より説明を受けた。  
なお、工事については平成19年6月末の完成予定である。

## 建設経済

### 平成18年度池戸配水池 築造等工事について

池戸深谷地区に築造している配水池工事の進捗率は、11月17日現在60パーセントであり、このタンクには緊急遮断弁を設置しており、地震等が発生した場合に、16000トンの水量が確保できる構造となっている。

完成間近の池戸配水池



## 下水道推進

### 下水道事業処理場の基本設計について

配置計画の概要は、水処理ゾーンの北側に管理汚泥処理ゾーンを配置し、環境整備ゾーンは築山のように盛土し、樹木を植え、ため池の環境と提携したピオガーデンを創造する。  
一日最大汚水量は、8488立方メートルである。

### 下水道推進工法について現地調査

池戸地区の現場にて、県道小蓑前田東線から東へ106メートルの地点の立坑(直径2.5メートル)において、西へ向かって、管径54センチのコンクリート管を接続している推進(トンネル)工法の、現地調査を行った。  
掘進機は、玉石混じりの砂礫を含む広範囲の土質に対応でき、長距離推進が可能。メンテナンスコストも軽減でき、モニターテレビによる常時監視で、高い施工精度が得られ、一日当たり10メートル程度の掘削工事を行っている。

## 環境保全

土壌汚染対策や、希少野生生物の保護などについて、説明を求めた。

**問** 高松東ファクトリーパークの調整池などへの排水の水質検査は、

**答** 産業振興課長 年2回実施している。水質が不良の場合は、企業へ改善の指導をしている。

**問** ため池に生息しているオニバスや、バラタナゴなどの生物が、消滅傾向であるが、

**答** 産業振興課長 県と連携し、これらの生物の保護に、慎重に対処していく

# 17年度 決算特別委員会

## 指摘は 7項目

新年度予算に  
生かせ！

### 13件の決算を認定

9月定例議会会で、決算特別委員会に付託された17年度各会計決算9件ならびに、一部事務組合決算4件、合わせて13件は、20日の本会議で、原田照治委員長、閉会中の審査結果についての報告に続き、採決が行われ、全会計決算を認定した。

委員会では、執行された事業のうち7カ所を現地調査し、7項目を当局に対し指摘し、来年度への対応を提言した。

指摘事項、補足説明は次のとおりである。なお、これらについては平成19年3月定例議会において、状況報告される。

### 強い態度で望め

町税及び住宅使用料における滞納対策については、その状況を把握し、特に悪質と認められる者については、法的手段をもって収納率の向上に努められたい。

### 徹底的な見直しを

町費単独補助金及び委託料については、行政効果等を十分精査し、経費の節減に努められたい。

### みんなにやさしい 町づくりを

少子高齢化の進展する中、若者に魅力のある住みよい町にするため、町独自の少子化施策を立案された。また、介護予防対策として、健康づくり・食育などの施策の推進に努められたい。



農業集落排水事業  
井上南部地区の現地調査

### きれいな 海・河川のために

公共下水道・農業集落排水事業の推進にあたっては、有利な補助制度を活用できる期間内に事業計画を立案するとともに、将来の財政計画を数値で示しながら事業を推進すべきであり、管理運営面では、供用開始後3年以内に計画区域内全戸の加入達成を目指し努力されたい。

### アイデアと 工夫を凝らして

活き生きふれあいまつりについては、経費の節減と運営の合理化に努めるとともに、イベントに創意と工夫を凝らして、集客力の向上を図られたい。

### 計画路線の 早期整備を

道路網・生活環境整備として、特に町主要（南北）幹線道路の計画路線の整備を推進するほか、生活道路における未舗装道の解消、山間部路線の整備及び交通安全施設の充実を図られたい。

### 耐震化率の向上を！

今世紀前半にも発生が予想される南海・東南海地震に備え、自主防災組織の充実及び、小・中学校等施設の耐震化を早急に図られたい。



もう大丈夫、白山小学校

固定資産評価審査  
委員会委員に、2氏を選任



加瀬 泰二 氏

平成15年12月就任以来  
2期目。大字平木(57歳)



中村 俊忠 氏

平成18年12月初就任  
大字井戸(65歳)

## 請願・陳情のゆくえ

平成18年請願第1号

「池戸香蓮寺地区内農道」の町道認定に関する請願  
平成18年8月7日

提出者 請願代表 香蓮寺自治会  
会長 滝川一三 ほか29名(採択)



現地調査の様様

## 工事請負変更契約を締結

工 事 名 平成18年度地方道路整備臨時交付金事業  
町道三木志度線道路改築工事

変更前の金額 39,900,000円

変更後の金額 51,114,000円

契約の相手 有限会社 川波建設

## 意見書

議員から、次の意見書案が提出された。  
審議の結果、可決され、衆・参両院議長をはじめ、  
関係行政庁に提出し、その実現を要請した。

森林・林業・木材関連産業政策の充実と国有林  
野事業の再構築に関する意見書

提出先 衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・  
外務大臣・財務大臣・農林水産大臣・  
環境大臣・林野庁長官

第2回 臨時議会

(平成18年10月25日開会)

各委員会委員を  
補欠選任

教育民生常任委員会

桑井 明人  
松原 哲也

議会運営委員会

古市 嘉忠

環境保全対策  
特別委員会

桑井 明人

行政改革推進  
特別委員会

松原 哲也

議会広報編集委員会

糸目 隆光  
松原 哲也

## 議員出欠表

(本会議のみ)

第4回定例議会(12月)

議員氏名	12/13	12/18	12/20
松原 哲也			
三木 和則			
香西 義典			
白井 正治			
三宅 貞夫			
香西 俊之			
古市 嘉忠			
香西 茂知			
西丸 一明			
谷畑 健二			
宮武 貞夫			
谷本サクミ			
桑井 明人			
古市 弘			
原田 照治			
筒井 米市			
山本 繁			
溝渕 清美			
糸目 隆光			
石井 定夫			

印は出席、×印は欠席  
|印は半日出席

# 元気なグループ紹介

## 「私たち、『銭太鼓・歩こう会』の歴史を紹介します」

平成5年下高岡公民館に、指導者・原内義秋先生を迎えて20名がうぶ声を上げました。

その後白山集会場に会場を移し、練習していましたが、平成9年ウオーキングセンターが開館と同時に引越をして、早10年になります。

会長・松本ナガ子さんをはじめ、女性ばかりです。毎週土曜日の朝9時から11時まで、現在、先生はお休みしていますが、皆が上手なので、一人ひとりが先生です。老人車、徒歩、自転車などを利用して、頑張っております。昨年秋には、2名が会員になり、現在

9名で練習に励んでいます。休憩中には、人生の先輩達に、料理、昔の行事、テレビなどの話に花を咲かせて、和気藹々でお茶を飲みながら、楽しいひとときを過ごしております。

毎年2月にはウオーキングセンターの発表会、昨年12月には老人会の発表会と、発表会が近づく、練習にも力が入ります。老人会の発表会では、出演後の顔には皆さん満足感と、こぼれんばかりの笑顔でいっぱいでした。

長生きの秘訣は、「土曜日にウオーキングセンターに来て、皆の元気な顔を見て、雑談しながら銭太鼓をするのが楽しみで、少々足が痛くても、腰

が痛くてもオンバを押し、ここへ来るだけを楽しみやで。お花見温泉にも連れて行ってくれるし、ここ辞めたら、うちら行く所ないけんの。」と口を揃えて言っております。

(横内 秀代)



## 議会広報編集委員会 研修報告

平成18年11月10日、広報発行町議会連絡協議会主催による県外研修で、5町の広報編集委員および事務局職員が、兵庫県猪名川町議会を訪問した。

当日は、議長から歓迎の挨拶を受けた後、広報特別委員長から猪名川町議会における、議会だよりの編集に係る概要説明を受けた。

さらには、一般質問の記載要領、写真の向き、配布方法といった具体的な事項について、意見交換を行うなど、大変有意義な研修であった。



## 編集後記

私が石油ストーブを背にして「コタツに入っていると、外から帰ってきた小学生の次男坊が「寒い！寒い！」と言いながら「コタツに入ってくる。すかさず私が「何を言う」とんや、子どもは風の子やで」と言う、すかさず「子どもでも寒いもんは寒いんや」と返して来る。そこで私は「この寒い冬を乗り越えないと」まで言う息子「あたたかい春はやつてこない」と続ける。これが真冬の私と息子の合言葉であった。あの頃がなつかしい。今年の春、我々議員の中の何名が本当にあたたかい春になるのか。現メンバーでの発行はあと一回となりました。その次号の発行時には新メンバーにバトンを渡しています。長い間ご愛読ありがとうございます。

(K・M)